



セミナー開催趣旨

福岡大学 鈴木慎也



令和7年度廃棄物資源循環学会春の研究討論会
災害廃棄物研究部会
「災害廃棄物発生量の推計と研究動向」

- ・開催日: 2025年5月29日(木)16:00-18:00
- ・開催場所: 川崎市産業振興会館
- ・受講者: 春の研究討論会参加の皆様

■令和6年度のふりかえり

「災害廃棄物研究の動向と今後の展開」(行政研究部会との共催)

■災害廃棄物研究部会の設立以降の活動・支援内容と今後の展開

■研究動向の整理

- ・**実務にすぐ活かせる**：複雑怪奇な数値モデル、課題山積の研究成果の適用は困難、
- ・**公的な根拠資料に基づく**：代表格は環境省「災害廃棄物対策指針」の技術資料
- ・**過年度の災害における知見や教訓に基づく**：現場は理論より実践を重視
- ・**体系的に整理され全体理解につながる**：個別の事例紹介にとどまらず俯瞰的視点で整理

■パネルディスカッション「行政視点から今後求められるもの」

●コーディネーター： 行政部会長

●パネリスト(4名)： 学識者、実務者兼学識者、行政職員(国・自治体)

- ・円滑な処理には適正な**補助金**が不可欠： 見積には**発生量推計**が必須
- ・被災現場の職員としての**意識づけ**： **発生量**を**推計**し、廃棄物量をイメージすることが重要
- ・報告書作成にあたって： 災害の**種類**、**地域性**などを勘案した**推計**、**原単位**の**修正**が必要では？
- ・発生量推計以外の課題： 仮置場の適地選定、仮設焼却炉導入のレビュー、
空家・退蔵品の事前処理 etc.

■災害廃棄物研修内容の多様化

■図上演習、模擬訓練以外の研修も登場

●例えば「水害時の災害廃棄物発生状況GIS研修」(環境省九州地方環境事務所)

(https://kyushu.env.go.jp/recycle/page_00047.html)

第1回「QGIS, 地図で見る統計」



(<https://qgis.org/>)



(<https://www.e-stat.go.jp/>)

第2回「水害時の災害廃棄物発生状況図化」

- ・災害廃棄物発生量の考え方
(環境省原単位)
- ・浸水深と原単位の関係
- ・QGISを利用する方法
(国土交通省国土数値情報)
- ・j STAT MAPを利用する方法

第3回「水害時の災害廃棄物発生状況図化」

- ・QGIS応用編
(自治体ハザードマップの利用)
(国土地理院基盤地図情報[※]の利用)
(災害廃棄物に係る無料データ)

■令和7年度「災害廃棄物発生量の推計と研究動向」

■災害廃棄物：発生量、発生する廃棄物の種類は大きく異なる

- ・災害の種類と被害の甚大さ、地域性等の要因から
- ・画一的な対応では適正処理としては不十分

■学術論文：地域特性や被災規模等に応じて緻密な検討が進められている

- ・そのまま現場で活用されることは難しい
- ・今後の災害廃棄物研究のあり方を整理する必要

■災害廃棄物発生量推計研究に対する要望を変わず多くいただいた

- ・当該研究に関する最新動向
- ・研究成果の社会実装に向けた取り組み
- ・最適な災害廃棄物処理支援のあり方

プログラム・講演資料ダウンロードは部会ウェブサイトから
(<https://jsmcwm.or.jp/dw/2024/05/13/2025-5-29/>)